平成２９年度
熊本県「生きる力」を育む研究指定校（心の教育研究推進校）

研究主題

「乙女の宝」を育てる道徳教育の創造
～乙女スタイルの授業づくりを通して～

「乙女の宝」とは

乙女小学校では、「相手の立場や気持ちを考え、ともに生きる豊かな心をもつ子ども」を育てることを目指しています。本研究テーマにある「乙女の宝」とは、そんな「乙女の子どもたち」そのものであり、係る文言を以下のように捉えています。

「相手の立場や気持ちを考え（る）」とは、相手の立場や気持ちを推察し、その思いに心を寄せ、気持ちを重ねて考えること。

「ともに生きる」とは、多種多様な考えをもつ仲間同士、相手の思いを尊重しつつ、自分自身の気持ちに素直に生きるということ。

「豊かな心をもつ」とは、感情豊かに、素直に自分の気持ちを表現し、次の自分の行動へとつなげていくこと。

昨年度までの取組で培ってきた「乙女スタイル」の授業づくりを柱として、年間３５時間の道徳の時間を中心に、子どもたちによりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきたいと考えます。

周囲の仲間との関わりの中で、教材を通して自分自身を見つめ直していく姿、そして、その根幹にある「ふるさと乙女」を大切に思う子どもたちの心を感じていただければと思います。

甲佐町立乙女小学校

☆研究の構想☆

本校の教育目標
心豊かで　たくましく
自ら学ぶ児童の育成

児童の実態

保護者の願い
地域の願い
教師の願い

めざす児童像

1　相手の立場や気持ちを考え、ともに生きる豊かな心をもつ子ども（豊かな心）
2　心身ともに健康で、安全な生活ができ、一生懸命に最後までがんばる子ども（健やかな体）
3　基礎基本を身につけ、自分の考えをもち、自ら判断し、行動できる子ども（確かな学力）

重点努力事項

豊かな心の育成
◎道徳の授業づくり　◎心づくり
○仲間づくり　○体験活動づくり　○安全安心な居場所づくり

研究主題

「乙女の宝」を育てる道徳教育の創造
～乙女スタイルの授業づくりを通して～

本校の道徳教育重点目標

○目標を立て、粘り強くやり遂げる。
○友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う。
○郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。

研究の仮説

道徳の時間を中心に、「授業研究」「環境整備」「地域連携」の３つの視点から工夫を行えば、豊かな心をもった「乙女の宝」を育てることができるであろう。

各教科・特別活動・外国語活動・総合的な学習の時間
生徒指導・学級経営

道徳性

研究の仮説

＜視点１＞授業研究

・「特別の教科　道徳」（道徳科）の趣旨・内容を踏まえた授業において、「乙女スタイル」の授業づくりを確立していけば、自己を見つめ、生き方について考えを深めることができるだろう。

・継続的に「道徳ノート」の活用を図れば、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、指導や評価に生かすことができるだろう。

＜視点２＞環境整備

・掲示物を工夫し、「乙女の宝集会」を通して異学年間の交流を図れば、学びが広がり、道徳の時間と生活をつなぐことができるだろう。

＜視点３＞地域連携

・「熊本の心」を活用した道徳の授業を地域や保護者に公開し、ＧＴとして参加や協力をしてもらうことで、家庭や地域とよりつながることができるだろう。

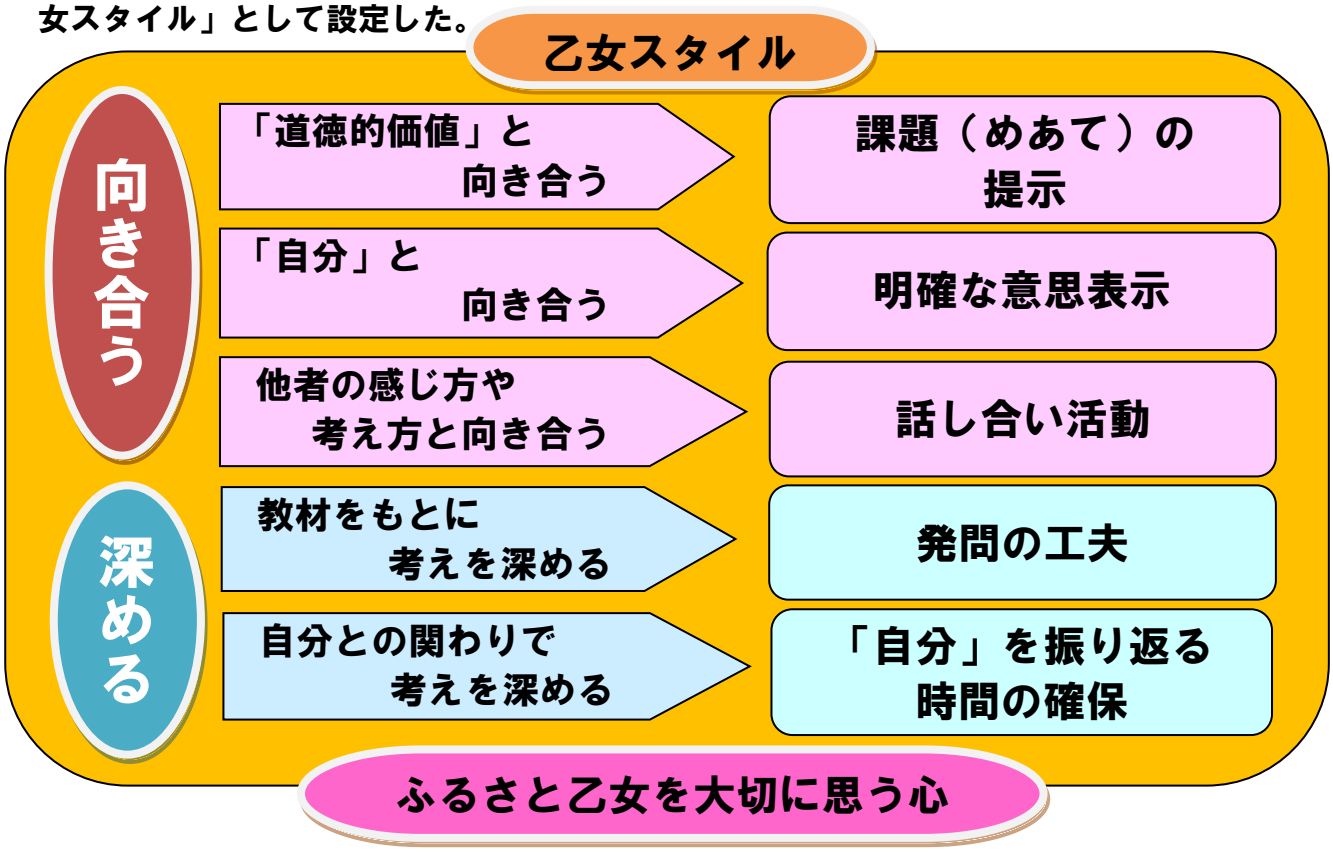
・「熊本の心」や「わたしたちの道徳」等の家庭での活用を促せば、学校と家庭、そして家族のつながりを深めることができるだろう。

☆研究の実際☆

＜視点１＞　授業研究

乙女スタイルの授業づくり

本校では、道徳教育の要としての道徳の授業を創るにあたっての基本的な考え方を「乙女スタイル」として設定した。



乙女スタイルの授業づくり例

５年　内容項目Ｃ　規則の尊重　　教材名「ふくらんだリュックサック」

■本時のねらい：きまりを守り、進んで公共の場を大事に使おうとする態度を養う。

学習活動	授業の実際
１公共施設の様子や使い方について発表する。 **課題（めあて）の提示**	・自分たちと教材を関連付けるため、乙女河原の写真を示した。 写真を見て、どう思いますか。 乙女河原だ。バーベキューの後みたいで、散らかっているな。
２教材「ふくらんだリュックサック」を聞いて、考えたことを出し合う。	・すぐにごみを拾わない「わたし」の気持ちに共感させながら本音を引き出した。 「わたし」がすぐにゴミを拾わなかったのは、どうしてですか。 ・自分が、落としたゴミじゃないから。 ・自分一人でしても、全部は片付かないから。 ・親子の様子や父親の言葉に「はっとした」わたしの気持ち考えさせた。
発問の工夫	**中心発問：「わたしは、どんなことを考えたのだろう。」**
明確な意思表示	・自分の考えをワークシートに記入し、意思表示ができるようにした。 ・「なんで自分は拾おうと思わなかったのだろう」と思ったんじゃないかな。 ・きっと、「自分は何もしてなくて、はずかしい」と思ったよ。
話し合い活動	・10 年前の山を取り戻すぞと思った。 ・心の奥にお父さんの言葉が届いたと思う。 ・自分のごみじゃないのに、親子は拾っていてすごいと思います。
３自分を見つめて書く。 **「自分」を振り返る時間の確保**	・何気なく捨てているゴミが人を困らせていることに気付きました。 ・地域のゴミ拾いをするゴミゼロデーの日に、面倒で拾わないことがありました。 ・落ちているゴミを見て見ぬふりをしていました。次は拾おうと思います。
４ゴミでふくらんだリュックサック(実物)を見て、今後の自分に展望を持つ。	・公共の場所は、みんなの物なので大事に使うこと、一人一人が次の人のことを考えて気持ちよく使うことを話し、今後の意欲付けをした。

課題（めあて）の提示：身近な公共の場である緑川（乙女河原）の写真を示し、学習の方向付けを図ることができ、本時を通して高めていきたい道徳的価値と向き合うことができた。

話し合い活動：グループごとに意見を出し合い、他者の感じ方や考え方と向き合うことができた。一方で、発表時間や方法などで課題も残った。

「道徳ノート」の活用

内容項目と対応させてワークシートを分類

「どんな内容項目について考えたことなのか」が分かるように、ワークシートを内容項目ごとに色分けして分類し、「道徳ノート」に貼り付けています。

蓄積と継続、そして評価へ

前年度の「道徳ノート」は、学年が上がっても引き継ぎ、児童の心の変容を見ることができるようにしました。心の変容の経緯を残すことで、自己の成長を実感することができると考えています。また、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る材料にもなると考えます。

「道徳ノート」が、自分で創る「世界に一冊のノート」に

ワークシート以外にも、関連する他教科の学習シートやお礼の手紙なども貼り付けています。また、感想やメモを書き込んだりすることで、日常生活や他教科の学習と道徳の時間とのつながりが見えるようにしています。

どの内容項目と関連させて書いたり貼ったりするかを児童自身に決めさせることで、「世界に一冊の自分のノート」となり、大事に読み返す姿も見られます。

＜視点２＞　環境整備

掲示物（道徳コーナー）の工夫

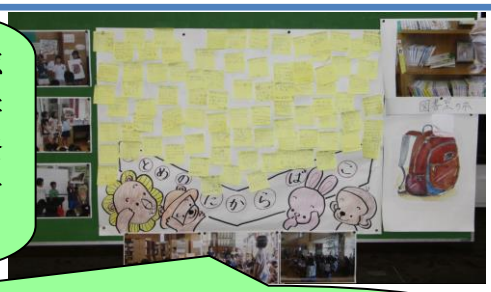
ワークスペースの道徳コーナー

教室の道徳コーナー

学習した教材の挿絵に一言添えて、「道徳ノート」の分類と同じ色ごとに分類して掲示しています。あらゆる場面で振り返ることができます。

「乙女の宝集会」を通した異学年間の交流

「乙女の宝集会」では、道徳の時間に勉強したことを学年ごとに発表しています。発表の後、全校児童で感想や考えを交流しています。



思いをカードに記入して伝える「乙女の宝箱」も設置しています。カードを掲示することで、自分が伝えたことを文字で残したり、大勢の前では伝えられなかった思いや、集会後、改めて感じた思いを伝え合ったりしています。

＜視点３＞　地域連携

「熊本の心」を活用した道徳の授業公開とＧＴの活用

保護者や地域の方々に来校していただき、全学年で「熊本の心」を活用した道徳の授業参観を行いました。保護者参加型の授業も実施しました。

道徳の時間や全校集会、各教科に乙女小校区の方にＧＴとして来ていただき、話を聞きました。積極的に地域の人材を活用することで、新たなつながりも生まれています。

「熊本の心」等を活用した親子読書の実施

親子ふれあい読書カード

４　年　（　　）

	月　日	題材名	保護者感想（子どもさんと一緒に読まれての感想）	児童感想（おうちの人と一緒に読んでの感想）	担任印
1	９月２０日（木）	ふるさとをえがく			
2	１１月２０日（月）	電灯記念ひ			
3	１月２０日（土）	はとと馬			
4	３月１０日（土）	美しい音色を求めて			

＊　毎月０が付く日はノーテレビデーです。日にちを設定しておりますが、０の付く前後の日でも構いません。
他に興味深い題材があれば、差し替えても構いません。

ノーテレビ・ノーゲームデーに合わせて、「熊本の心」や「わたしたちの道徳」の読み物教材を親子で読書する機会を設けています。子どもたちと保護者の共通の話題にすることで、自分自身を見つめ直したり、自分の親や地域のことを見つめ直したりする機会になると考えました。また、学校で取り組んでいることの啓発にもつながりました。

☆成果と課題☆

○「乙女スタイルの授業づくり」について職員間で共通理解を図ったことで、単なる話し合いや登場人物の心情の読み取りではない道徳の時間へと質的転換を図ることができた。児童が自分を見つめ、生き方について考えを深めるきっかけになっている。

○「道徳ノート」を継続し蓄積することで、児童の心の変容や成長の跡を残すことができ、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することができるようになった。

○昨年度までの反省を踏まえて環境整備や地域連携に取り組んだことで、道徳の時間だけでなく、学校教育活動全体で進める道徳教育であることを地域にも発信することができた。

▲多様な指導方法の活用を進める中で、教材をどのように使い、どう発問を組み立てていくのかという授業の本質の部分の重要性を、改めて感じられた。

▲道徳の教科化に向けて、子どもたちの心の変容の把握や評価の方法が課題と考える。本校では、「道徳ノート」を効果的に活用することで、児童がいかに成長したかを受け止め、励ますことができるように研究を進めていきたい。